

人的活動の原価や効率性把握としての  
工数情報、給与計算情報としての勤怠情  
報を統合管理するためのシステム。



## 工数+勤怠管理システム「オンネット工数」

### ■工数・勤怠管理は基幹システム

勤怠・工数管理機能は、入力の簡便さ（スマホ利用など）を追い求める傾向が強いと感じています。それらを否定しませんが、その前に人、商品、取引先、部門、プロジェクト、工程などの項目と連動を図る視点が必要です。即ちマスタ統一です。「オンネット工数」は「オンネット統合業務」の部分機能ですからマスタは統一され、入力したデータは、「CSV渡し」ではなくDB間で連動します。

### ■工数、勤怠、経費、日報を一括管理

多くの勤務データ管理商品（主に収集）が市場にあります。しかし、工数管理、経費管理とも結びついた商品は少なく、それぞれ個別で、結果的に入力も重複しています。「オンネット工数」は、両機能を一緒に扱います。なぜなら、時間管理という点、事業の原価管理という点のデータは極めて似通っています。それなら、一括管理してデータ入力やチェック工数を抑制すべきです。

### ■社内活動をプロジェクト単位に集計

プロジェクトとは、売上、購買、工数、経費を串刺しするための集計単位を表しています。日常の取引、工数日報などの伝票データを画面から登録すると、プロジェクト別に、集計されます。ここでは、工数、経費を説明していますが、売上、購買とも連動しています。その結果、損益管理の即時化、効率性が向上します。

### ■機械打刻と入力時刻は別項目管理

時刻を打刻するデバイスは各種販売されています。例えば、電子パンチカード、スマホ、製造装置に設置されたセンサなどです。これらから収集する情報は意外と単純で、「設置位置が特定できるデバイスID」「GPS位置情報」、「時刻」、「個人ID」です。原則的には電子データの仕様が分かれば、どのデバイスとも接続を行えます。また、デバイス打刻時刻と手入力時刻の項目を別々に保持していますので、人的判断を加えることやエビデンスを保持が可能になります。

### ■見える勤怠の実現

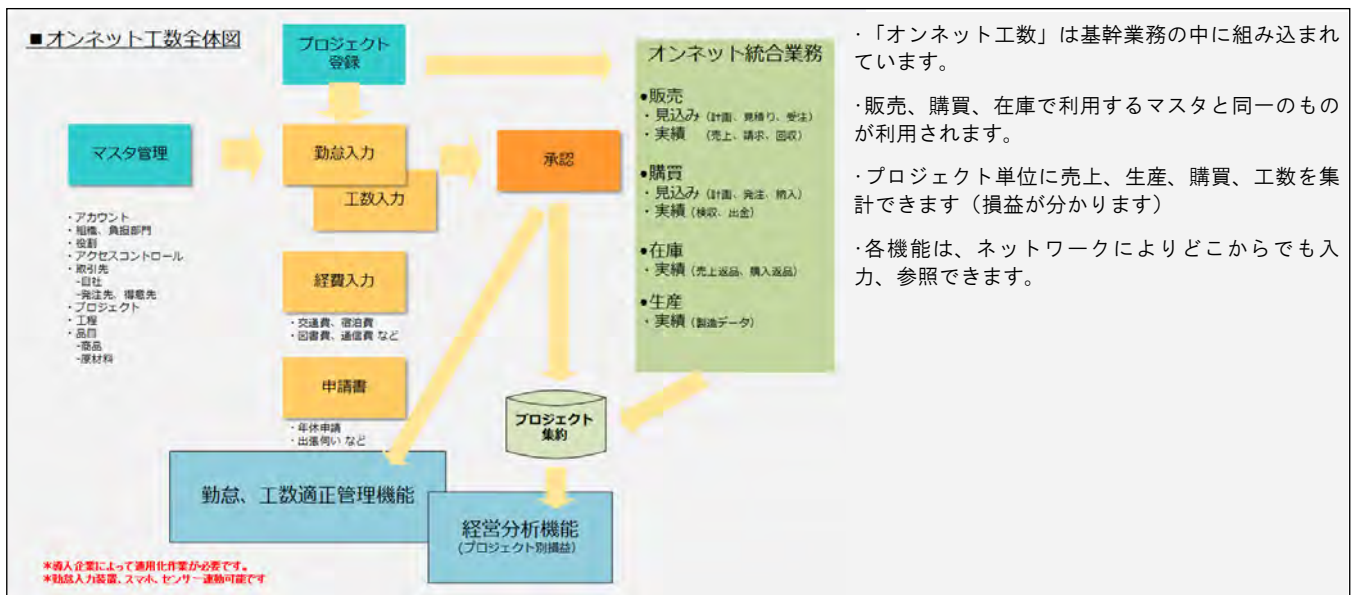
雇用形態は多様化しています。例えば地域格差、介護問題などで、テレワークが推進されたりしています。この様に、働き場が分散化されているので、現場からの勤怠情報を遠隔収集する必要があります。「オンネット工数」は「介護などの途中抜け」もその種類ごとに自由に集計できます。実現できるのは、工数明細単位に開始時刻、終了時刻、除外時間が登録できるからです。多くの工数管理は投入工数のみを入力する（投入時間のみで、開始、終了時間管理でない）仕様になっているため、勤怠とは別管理になり、実勤怠と仕事の関係が掴みにくくなります。

### ■承認フローの存在

承認フローがあることは重要です。人手入力では必ず、判断ミスが起きます。工数でいえば集計作業の選択違い、勤怠では残業の深夜・早出が考慮されていなかった、などです。このような間違いデータをチェックする仕組みが必要です。「オンネット工数」では承認作業をネットワークを介してどこでも行えます。また、承認するということは、上司が毎日の仕事ぶりをチェックできるということで、極めて常識的な日常作業なのです。

### ■拡張性（オプション）

例えば原価集計となると、製造工程なども関係することになり、汎用機能だけで済ませるのは難しいケースが出てきます。その場合でも「オンネット統合業務」のカスタマイズの容易性が威力を発揮します。システムの効率性は、出来る限りのデータの連動性にあります。「不足機能はCSV出力、エクセル加工」は、よく見る光景ですが、その作業工数を分析してみると結構な工数を要しているではないでしょうか？



<b>プロジェクト登録</b>	プロジェクトNo.と名称を管理します。その下に、販売、購買、工数などの管理明細を付けることも可能です。取引伝票、工数を関連付けします。
<b>勤怠・工数入力</b>	日々、勤怠情報（出退勤、年休など）及び工数を同時入力するための機能です。各機器からの自動入力も可能です。マイ・プロジェクト選択、前日参照などで入力の容易化に取り組んでいます。
<b>経費入力</b>	旅費・交通費などを登録する画面です。これらも登録時にプロジェクトと関係付されますから、集計は自動化されます。
<b>申請書入力</b>	「出張伺い」「年休取得願い」など任意に申請書画面を定義することができます。申請する項目をDB登録すると、画面上に項目表示させる構造になっています。
<b>承認</b>	管理者による承認フローを備えています。申請、却下（差し戻し）、自身による取り下げなどが可能です。
<b>マスタ類</b>	アカウント/組織・負担部門/取引先/品名（商品、原材料など）/工程/などのマスタと連動させることができます。

\*導入に当たっては、業務適合化作業が必要になります。\*提携社会保険労務士と連携し、就業規則に合わせることも可能です。

**販売・在庫・購買業務を高機能で一元管理できる  
オンネット 統合業務シリーズ**

オンネット統合業務シリーズは、オンネット販売・オンネット在庫・オンネット購買・オンネットPOSで構成されています。各システム間の連動、業務手順を反映したデータベースなど、高機能によって業務効率を向上するシリーズです。

**■すぐれた拡張性を持つオンネット統合業務シリーズ■**

- 画面表示部・業務機能部・データベース部にプログラムを分離構成。画面表示部の設計により、タブレットやスマートフォン表示にも対応できます。
- 業務機能部・データベース部と画面表示部はSOAP/REST、HTMLで接続。業務機能部・データベース部は自社や関連会社のサーバ、またはクラウドに設置できます。
- データベース間連携により、別システムや他社ソフトウェアとの接続も可能です。
- シリーズすべてがクラウド運用に対応しています。

推奨 OS : Windows® 7 Professional, Windows Server® 2012 Standard 以上

「オンネット統合業務シリーズ」の設計思想  
**長期間使い続けられる、柔軟性の高い基幹業務システムを目指して。**  
 —大型コンピュータからリーズナブルなPC・サーバ運用へ—

独自の事業ノウハウで改善を継続する企業活動を実現するために、業務システムには「ノウハウを反映した機能を長期間使い続けられる」という考え方が重要です。タブレット、スマートフォン、シンククライアントなど、ハードウェアが多様化しても十分に使い続けられる業務システムを提供するために、オンネット統合業務シリーズは次の点を前提に設計しています。

- ・広く普及し標準化している通信技術、データベース技術を利用する。
- ・利用形態に応じてPC、サーバ、クラウドに設置できる。
- ・画面表示部の更改で、さまざまなハードウェアに表示できる。
- ・各社の事業ノウハウを取り入れたカスタマイズに対応する。

・Microsoft, Windows, Windows Azure, Microsoft Excel, Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。・Amazon Web Services は米国その他の国における Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。・ONNETは株式会社オンネット・システムズの登録商標です。・その他、文中の社名、商品名などは一般に各社の商標または登録商標です。・仕様は予告なく変更する場合があります。